

筆山

第16号 / 1993.7

土佐中・高同窓会 関東支部会報

〒112 東京都文京区水道1-10-7 同窓社気付 ☎03-3816-7011 / FAX 03-3816-7044 編集人／藤宗俊一 (42回)



1992年紅白歌合戦 (11面に記事) —— 写真提供・NHK

三十年前、一九六三年（昭和38年）の夏、初めて渡米。世界の流通業界の勉強であった。業種も年齢もバラバラの十五人のグループだが、観察していると三つのタイプに分かれた。過半数は無条件降伏派。こんなすごい国によくぞ戦争を仕掛けたものだ、と、驚嘆と反省ばかり。三分の一がこれに対する国粋派。こんなまずいもの喰えるかといったような祖国郷愁のタイプ。そして、極少数が是非々主義の開明派。

警戒すべきは、イメージのレッテルである。「高知県人は大酒呑みだ」ぐらいなら御愛嬌で笑いとばせるが、それが国や企業や個人の実質の評価に絡んでくると事は重大である。レッテルにとられず、前言に謬まりあれば遅滞なく修正するのが勇者である。そして、敗者復活戦が適正に行なわれる社会は健全だと思う。

なお、三十年前、帰国して二ヶ月程の11月22日、初めての衛星中継で送られてきた画像が、若きケネディ大統領のダラス暗殺。アメリカの強大さと恐ろしさを教えられた一年であった。

を出版予定だとか。知曉さんとゴリラとの出会いを沢山のエッチングと文で綴るゴリラの本。乞うご期待。

同 期 会

●33回 関東地区同期会
5月29日、竹橋会館にて。出席者、約30名。

●37回 川添 正之

春分の日3月21日に、新宿・歌舞伎町の「土佐へ来てみいや」において五十路を前

に集まろうと、37回生の同期会が開かれました。当日の出席総員27名。間近になって出張でどうしても出れなかったとの連絡が二、三本、皆それぞれ活躍の様子。店長が全然土佐時間じゃないとびつくりするくらい、集合具合もよく、酒が入ればそこは土佐の男と女。うちの娘は二十才前との話があれば、「紹介してや」とか、僕はこの店に来る途中に何人もの女性から声をかけ

られた等愉快な話が続出。中には浜松から駆けつけた女性もおられ、夜遅くまで歓談し、またの再会を約して散会。支部名簿が存分に威力を発揮、名簿チームの皆様本当にご苦勞様。同窓生の益々のご健勝ご多幸を祈念致します。

す き ま 風

うそつき解散国会の日、宮地支部長が宮中饗宴の儀で賜った『マサコ綱』にお目見え

比奈子は初恋の相手文也と恋におちるが、莎代理の霊が妨害する。三人は子供の頃、一緒に「かごめ、かごめ」で鬼を囲んでまわって遊んだ仲だった。

霊にあやつられて文也と比奈子は石鎚山に登る。山頂での生身の人間と死霊との斗いは壮絶である。

霊にとりつかれた人間の描写が丹念になされていて、現実感を高めており、特に終章では背筋が寒くなる。

これは生に喘ぎ苦しむ現代の世界を垣間みる恐怖からくるものだろう。

会話体のほとんどを占める土佐弁の使い方が実にうまく仁淀川、越知、面河といった地名も懐かしい。（岩）

「死 国」

51回生

坂東眞砂子著

マサコ綱

西暦293頁

定価1500円(税別)

「あんた、四国は死の国。死国ということ、知っちゃうかね」——死霊を呼び戻す口寄せの巫女のせりふは、我々四国人をどきっとさせる。

舞台は高知県西部の山村、高岡郡佐川町から20kmほど入った矢狗村。小学時代をこの村で過ごし、中学

から関東に移った主人公比奈子は東京でイラストレーターをしている。

比奈子はお盆のとき二十年ぶりに村を訪れた。旧友たちとの再会、同窓会。親友だった莎代理は中三のときに水死していた。

その霊を呼び戻そうとする母親の巫女。四国は死霊うごめく死の国であり、左に廻れば死国への道に通じ矢狗村は死国に一番近い場所だという。

出張するとは、仕事するつもりあるのか？——と白い目で見られたにもかかわらず出張を一日延期。

句いもかぐわしい杉の箱に鎮座まします鯛様は、バレンタイン30年、ムートン・ロトシールト、越

編集後記

■六月九日、雨ですることなく夫婦してテレビに釘付け。紀子様、雅子様と庶民プリンセスの流れが定着。「我がが同窓から皇室へ」という二ユ

乃寒梅、……。我々、下々の者にはめったにお目にかかれぬ高貴な従者にかしづかれ、神々しいばかりに輝いておられました。思わずヨダレをい、コウベをたれてしまいました。

テレビで国会中継が放映される中、おごそかに箸入れの儀が支部長の手によつて行なわれ、参列者全員で御相伴にあずかり、東宮の益々のご繁栄を祈った。宴は解散の詔とともに、お開き。「できれば、わが家の愚猫（妻？）にもお骨を御下賜くだされば……」と申し出たA氏は、周囲に「おまん、猫の名前を『マサコ』にせんといかんぜよ」とひやかされたが、折詰めにして颯爽とバイクにまたがり退参。後片付けという名のもと、何本かの従者も参列者の鞆に納まってしまった。

天下国家を憂え、皇室を尊び、まるで土佐勤王（金曜党）の旗揚げの様でした。（F）

ースが筆山の紙面を飾るのもそう遠い話ではない？

うちの姫君はこの日も朝早くから日焼けした顔でクラブ活動へ。プリンスは夜のJリーグ中継まで用はなしと昼を過ぎて起きてこない。まあ我が家にとっては皇室は永久に雲の上の世界のようで（鶴）

■二宮氏（49）の『Sargasso』に行く。元白金三光町界隈。瀟洒なグレーのビル。一步中に入ると幽玄の世界。夜のバーも雰囲気があるとは我が亭主。同伴の英国人は、トイレに「やはり日本は豊かだ」と感嘆絶句。ちなみに、そこは竹がふんだんに使われ、竹林の中で用を足すかの様。皆さん是非お試し下さい。（永）

■珍しく本業が忙しく、誰も何も言っていない。これ幸いとスボラを決め込んでいたら、酒呑童女さんから「いつ、編集会議？」と呑み会の催促。あわてて、みんなに電話したら、「もう出来上がった？」。みんな、いい虫飼ってます。

尚、内川校正部長が、今年になって、御主人と御母上をたて続けに亡くされました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、早々の復帰をお待ちしています。（藤）



平成五年度 新年総会

橋本知事来る！

平成5年の関東支部新年総会は、1月9日大手町サンケイホールで開催され、約三百名が出席した。学校からは、森田校長、籠尾先生をお招きし、関西、広島支部からも来賓の出席を頂いた。

恒例の講演会は、橋本大二郎県知事をお迎えし一時間にわたって講演して頂いた。皇太子妃決定の直後だっただけに、皇室担当記者の経験のある知事は、「陛下は『もしもし』という言葉をしらないと

思います」といったエピソードをまじえながら、「県庁という所は皇室以上に特殊世界で、『いかに仕事をしないので済ませるか』という風潮が蔓延している」と、新しい仕事に懸ける意気込みをユーモアでつつんで講演し、満席の同窓生から惜しみない拍手と賛辞を受けた。

講演会終了後の大懇親会でも、橋本知事は、あちらこちらで名刺交換や記念撮影せめにあい、料理に箸をつける暇

もない程の大忙し。中には、「我が子も将来、知事のように」と、知事に子供を抱いてもらって、記念撮影するほほえましい風景もみられた。

会場では、しばらく続いた飯設の大量は姿を消し、今回は立食形式で、屋台も登場した。皆、広いホールを回遊魚よろしく動き回り、随所で立ち止まっては談笑の渦ができた。待ち合わせた人と結局会えずじまいの御人もいたという。また後半には、福引も登場して、当選者は壇上で豪華な景品を受け取り、「おつりが来たぜよ」と大喜び。

老若男女、我らが同窓生の集いは今年も大盛会だった。

関東支部だより

木曜日に銀座の土佐酒蔵で開催している「一本会」は、2月4日、第40回の記念会となり、店からはみださんばかりの大勢で大混雑でした。

母校だより

学校長 森田幸雄
選抜高校野球大会出場に際しましては、特に関東支部の各位には物心両面にわたり、絶大なご支援を頂き誠に有難うございました。心から御礼申し上げます。力及ばず第一回戦で涙を吞みましたが、賜りましたご声援の数々を奮起の糧として、次なる目標を目指して精進中ですので、引き続き暖かいご声援のほどお願い申し上げます。

平成五年度大学入試結果

進学試験 ()は昨年度
北大3 (1) 東北1 (5) 東大6 (8)
早大42 (34) 慶大29 (25) 東工2 (2)
中央19 (11) 東理23 (30) 一橋0 (4)
明治18 (23) 立教6 (14) お茶1 (1)
青山10 (17) 日本28 (25) 上智6 (5)
名大1 (3) 阪大10 (7) 京大5 (5)
同志19 (11) 関学30 (21) 神戸7 (6)
立命18 (23) 関西20 (16) 九大2 (4)
自医2 (2) 高医10 (7)

●関東支部活動報告

- ▽1月9日 新年総会(サンケイホール・300名)
- ▽1月15日 広島支部総会に鶴和副幹事長出席
- ▽1月18日 常任幹事会
- ▽1月23日 関西支部総会に壺坂副幹事長出席
- ▽1月30日 東海支部総会に溝渕幹事長出席
- ▽2月1日 センバツ野球寄付募金活動開始
- ▽3月27日 甲子園応援
- ▽4月16日 顧問・役員会
- ▽6月1日 筆山編集会議
- 平成五年度年会費納入状況
6月1日現在 922名 276万6千円。未納の方は同封振込用紙で三千円を振り込んで下さい。
- 振替 東京7-1142816
- 野球部寄付600万円にセンバツ野球に出場の母校野球部に関東支部では757名の方から総額615万2千円の寄付が寄せられました。ご協力有り難うございました。
- 2月1日に正式にセンバツ大会への母校の出場が決定してから、都内各所で祝賀会が続きましたが、特に毎月第一

土佐高OB大活躍

NHK事業部 笠井重治(32回)

平成4年12月31日——一年を締めくくるNHK紅白歌合戦は昨年の視聴率を大きく伸ばし、95%とし、大成功のうちに終わったが、その裏には土佐高OBの大活躍があった。

番組の実施本部長——いわば紅白歌合戦の全責任を持ち指導したのが益弘泰男エンターテイメント部長(35)、そして演出の総責任者はエンターテイメント部のチーフ・プロデューサー、島田源領(41)の二人が紅白の中心となって放送された。

またゲスト審査員の出演交渉にNHK情報ネットワーク取締役、国見昭郎(34)が貴花田をくどきに九州まで足をの

「ゴリラがいて……私がいる」

49回 二宮 潔

筆山13号に『ゴリラ画家』として華々しく登場して頂いた阿部知曉(51回)さんが、この3月久々に東京で作品展を開きました。早速訪ねてみると、おるわおるわ！アフリカはじめ世界各国から知曉さんが連れ帰った野生のゴリラ数

ブラジルの言語は中南米各国の中で唯一ポルトガル語。他の殆どの国がスペインの植民地であった時期、ブラジルのみがポルトガルの植民地であったためである。このことは教養ある土佐高出身者であれば誰でも知っているはず！と思っていたが、一木会の席で「おまん、ブラジル駐在になつたらいいけど、スペイン語は大丈夫かえ？」と、堂々と聞いてくれた御仁がいたので、いささか怪しい。

足の裏から②

九時半!?

38回生

戸田 博之

いた小生がおもむろに登場。「イカン、イカン、九時半は！クーは肛門。ジは英語のOF。ハーンは蛙。九時半は蛙の肛門の意味だよ。それにメーシヨはさわる。クーは今言ったように肛門。飯を食うは肛門にさわるということになり、女性の前なんかで言ったら、それこそセクハラで張り倒されるぞ」

二人とも「エ——ッ」と、

言ったきり絶句。

「駐在員は日本の代表である。よって、すべからく紳士たるべし。九時半は九時三十分、飯を食うは食事をする。今後は言うべし」と訓戒を垂れた一幕。

その後ブラジル人が会議の話になるとニヤニヤしながら「コメッサ・アス・クー・ジ・ハーン(九時半に始まります)」と言うのには参った。

人の名前も同じ事。クボタという名前は上記の事からも分かるように、やや差し障りがある。ポータに不細工な物という意味があるので、クー・ポータとなると、これもブラジル人のニヤニヤの対象。知人が銀行員の久保田氏は、わざわざ名刺にはKOBOTAと印刷し、クカコが分からないよう口の中でモゴモゴと発音していたのを思い出す。大勢のクボタさん、ブラジルに来る時は気をつけてください！

MR. Hiroyuki TODA
c/o Kawasaki Steel Ltda.
Paraia de Botafogo
228 Setor B/509
CEP22359-900 RJ, BRASIL

ついていた警官つかまえて「拾得物ですがどうしたらいいでしょう?」「それじゃあこちらへ来てくれますか」と連れて行かれたのは選手入口を入ったところにある甲子園事務局。通常試合終了後、勝利チームの監督・選手のインタビュを行うお立ち台のある通路の手前。小生警官と同行したから入れたものの、普通はプレスおよび大会関係者のみが入れるところ。事務局で手続きを済ましてその通路にでると、丁度籠尾監督が記者に囲まれてたんとインタビュに答えていたところでした。そのまわりを選手たち、警官が待っているのをそれを見ながら、心の中で「お疲れさま。みんな夏もまた来いよ」とつぶやきながら外に出たのでした。外はまことに快晴でありました。

●49回 山崎 文雄

△東京の西、故郷の東▽福岡ドームからの帰りの飛行機のスクリーンの中で純白のユニホームが踊っていた。大阪にいる頃は、学生時代にはアメリカンフットボール社会に出てベースが好きで甲子園には足繁く通っていたスタンドに座るといつも思い

出す風景がある……

1・死んだおばあちゃんに連れられて行った城西館近くの朝日新聞屋上から旗を振った準優勝パレード。

2・なぜか正門前の牛乳屋と、眩しいセミの鳴き声を思い出すベスト8進出。

3・よさこいで関西連合の酔いにまかせて乱舞したサイクルヒット。

4・クラブの合宿で痛めた腰をかばいながら、観たナイターのホームイン。

5・十七年前、一番電車で駆けつけた三塁側アルプス。

6・結婚し、生まれた子供と声をからしたビール4杯分の89年夏。

そして今春。僕の右には息子に娘に妻に両親、親族一同ご列席。左を見ると悪友のグッサンに、信介・佐介親子がフラインガーを覗いている。な、なんと前にはちよつと老けたね、子連れの香織ちゃん。

「カーン」という快音とともに、思わず研二を抱きしめる僕とオヨヨと立ち上がる壮年早起き野球のショートストップ!

ありがとう土佐高! ありがとう野球部! 春のアルプスの日差しの中

の僕の家族の「ドリームズカムトゥルー」蘇った興奮とともにジャンボは羽田に舞い降りた。

●51回 中谷 元

ソクソクと背筋が緊張し、全身がふるうほどの感動はめったにしたことにはありませんが、毎回裏表での自分のポジションに向かつて全力で駆けつけてゆく選手達の姿には純粋な野球へのひたむきな心が伝わり、そのふるえを感じることに

が出で、けがれの無い深山に咲く花を見つけた美しさがありません。土佐高野球とは単なる野球ではなく、人間を作り、魂を磨き、時代を作っていく偉大なる教育ではないかという気がします。今後とも良き伝統を守るために、頑張ってください。選手・指導者・支援者の皆様、本当にご苦労さまでした。

●57回 山岡 正人

「ありがとう」その一言に尽きます。私が小学6年生の春(土佐中に入学が決まったとき)あの玉川選手以来の甲子園。アルプス席で感動しました。(必勝のはちまきして応援しましたが…)9回は本当に惜しかったけど、選手達は胸を張

って新グラに帰って下さい。夏、また行こう! 最後に、全力疾走、見事でした。

●67回 石川 淑

正直いつて土佐高が勝つ予感はずっと東京にいて、しかも大学受験などで忙しく、土佐高のデータもほとんど知らなかったのにそんな悪い予感を感じていた。試合は最後の最後に逆転負け。まるで僕の今年の受験の合否結果のようだ。

前半「調子イイカナ」と思っても負けは負け。受験も不合格は不合格。これから一年、高望みをするよりも、自分に見合ったレベルの大学を目指して、現実的に頑張りたい。

土佐高野球部も伝統に縛られすぎて甲子園でかたくならな

いように、持てる力を発揮して欲しい。

●67回 市川 哲司

私は東京から日帰りで甲子園に行つたが、あの負け方は体に悪かった。今度は一回戦突破したいものだ。それから応援の仕方を考えれば良いと思う。応援の伝統を残しつつ、新しさもと入れれる。妙に東北高校に応援が負けていたような気がする。もう一つ先生方の顔を見なかったけどどう

いうことだろう。いろいろ書いたが、土佐センバツ出場は大変うれいものであった。(編集部註 試合当日が土佐中合格者発表日だったので、先生方は来られなかったのではないだろうか)



写真提供(6,7,9,10面)・高知新聞社

今後国立大現役合格率の回復と飛躍的アップを軸とした指導体制の強化に全力を挙げ所存であります。

●県下高校総体関係の成績

男子ハンド・優勝▽男子バドミントン・個人ダブルス2位▽女子テニスシングルス・2位以上四国・全国大会出場

本部だより

幹事長 池上武雄(28回)

●平成5年度総会日程
8月7日(土)三翠園ホテル
羽方将之氏(38回)を迎え『技術とライフスタイル・電子立国日本の歩みと今後の課題』の講演。多数のご参加をお願いします。

●同窓会会則検討委員会の答申の骨子について

松岡俊夫委員長(20)を中心に五回にわたる熱心な討議の結果として、3月26日、町田会長に答申をいただきました。改正案は、議案として総会でおはかりをいたします。

改正案の骨子は「集う同袍は、すべて同窓会の会員となる」との広い視野に立つて改正を行わんとするものです。準会員については、中途退学者や転校者のうち「同窓会の目的に賛同したもの」との

意志確認部分と「準会員は五千元」の入会金規定を削除するものです。

そのほか、「会員の資格喪失及び回復」に関する条文がなかったので二条を新設することになっております。

●谷川寛三先生を讃え感謝する会の開催

3月18日(木)高知新阪急ホテルにて、自民党県連を中心として盛大に開催されました。同窓会からも町田会長ほか多数の方が参加いたしました。

東海支部だより

支部長 水谷 昭(22回)

●支部総会は1月30日に「ねぼけ」(市川尚孝(51)店長)で開催され、約40名が出席。生憎、土佐高の卒業式と重なったため、森田校長をお迎えすることができず、些か淋しい思いもありましたが、関東支部からは溝渕幹事長が参加して下さり、賑やかな盛り上がりを見せました。この会にも昭和50年代から60年代の若々しい卒業生の参加が少しずつ増え、嬉しい傾向を示しています。

●これからゴルフ大会、夏の集まり等、例年通りの行事予定が控えています。

関西支部だより

事務局 竹原暢子(28回)

●1月23日(土)新年パーティー開催。陶芸家で大阪芸術大学教授の柳原隆夫氏の「陶芸よもやま話」を聴く。六時からのパーティーには学校・本部・各支部よりのご出席を頂き百三十名程で賑やかに開宴。

●二月にはいり甲子園出場決定を受けて募金活動にはいる。千三百名の同窓生、そして県人会各ブロックの方々にご協力を依頼、同窓生は約四百名の方々のご協力を得ました。

●3月21日母校野球部チームを関西支部有志で迎え。27日、待望の試合。結果はどうであれ甲子園で母校のユニフォーム、校章を熱く思いで見ることが出来て感激。

●「なんぶう」第10号発行のため編集会議にはいる。七月中旬発行予定。

広島支部だより

事務局長 小島一洋(31回)

●5月29日(土)、広島市での高知県人会に橋本知事夫妻が来られ、同窓生多数が夫婦等で出席した。約40分、知事に就任して以来ご尽力されてきた事業の数々とその背景の思

想、ご自身の行動の軌跡、そして今後の高知県に対するロマンをもとに展開されようとしている事業の手がかりのひとつひとつを丁寧に説明された。アツという間の強烈なる感動の時間が広島に漂った。

●広島同窓生と共に、この三月甲子園の母校の応援に駆けつけた。私達は全力疾走の姿を日本中に久方ぶりに再現できたことをこよなく喜んだ。土佐高健在なり。全力疾走は不滅である。

●我らのヒューマン・ネットワークを全力疾走させよう。郷土に基礎体力をつけ、その上に個性をつけよう。われらが友の青春力の融合化で魅力一杯の土佐の高知を作ろう。

筆山会だより

第24回 筆山会ゴルフ (6,2)

●優勝 小松三男(41) 93 21 72
②山中(24) ③浅井(30) ④BG竹田(33) ⑤北岡(5) 寺川(12)

●伴(16) 久保内(20) 宮地(21) 近沢(26) 福本(28) 新階(30) 吉野(31) 高島、藤原、宮川(33) 橋田(37) 八井田(34) 永野、中島、三宅(38) 横原(41)

●次回は十月上旬の予定。

●第23回 筆山会ゴルフ (10,28) ●優勝 永野博子(38) 94 25 68

いつまでも心に残るおつき合い

島崎和歌子

営業店舗

- 高知県下.....77店
- 徳島県下.....27店
- 香川県下.....9店
- 愛媛県下.....7店
- 本州地区.....11店

ぐんぐんバンク

四国銀行

本店/高知市はりまや町1-1-1 ☎(0885)23-2111

コックピットドアの向こう側

日本航空ジャンボ機機長

吉本 豊(44回)

我が母校、土佐高の卒業生は色々の分野で活躍していますが、航空界にも意外と沢山の同窓生がいます。パイロットだけでもJAL、ANA、JASの3社合わせて10名程います。

さて、ビジネスに観光につきり身近になった空の旅ですが、コックピットドアの向こう側パイロット達が何をやっているか意外と実態は知られていないので、その一日を紹介します。例えば日本航空101便、東京―大阪の場合、出発は午前6時55分ですが、その1時間20分前に出社します。現在私が乗務しているB747-400型のパイロットは三百名余りいますが、同乗するクルーの顔ぶれはその中で毎回替わります。手順が細かく定められているので初めて顔を会わせた人でも問題なく仕事ができます。本機はシステムモニター等、コンピュータ化されたので航空

機関士は乗務せず、パイロット二人だけで運行されます。さて運航管理室に行き、天候、航空に関する情報等をチェックして飛行計画を検討します。飛行コースは決まっていますが高度や予備燃料の搭載量等はその日の天候等により変更することもあります。ちなみに燃料の最低搭載量は航空法で定められていますが、意外と少なく、目的地まで飛んで、その後代替飛行場に行きその上空で45分待機できる量です。飛行機にとって余分な重量は大敵なので、目的地に行つて更に何時間も飛べる程の燃料は持っていないせん。

飛行計画にサインした後、客室乗務員と顔合せをします。そしてクルーバスで飛行機に向かいます。これが出発の50分前。整備責任者から機材状況の説明を受けた後、外部点検を行います。この間、副操縦士はフライトマネージャー・コンピュータへのデータ・インプット等をやっています。これが完了するのが約15分前。この頃には乗客の搭乗も始まっています。乗客のチェックインが完了したら、離陸重量や重心位置がデータリンクで送られてきます。それをコンピュータに入れて準備完了。出発5分前に管制塔に連絡します。全員搭乗しドアが閉められると再び連絡し、飛行計画の承認を受けます。エンジンスタート後、地上滑走し滑走路に向かいます。地上滑走はエンジンの推力で進み、方向は地上専用のテイルで変えます。

離陸はエンジンに最も負担のかかる時であり、故障した場合、離陸中断するか継続するか瞬時の判断と操作が要求されます。このため現在のところ自動操縦では対応出来ず、パイロットが手で操縦しています。離陸後安定したところで自動操縦に切り替えます。この後、最終進入まで自動操縦で、直接操縦桿は握りません。余談ですが世間一般ではパイロットは全て自動操縦任せで何もしてないと勘違いされていますが、実は自動操縦装置を操作しているのです。オートパイロットは縦方向で

10種類、横方向で6種類、オートスロットル(エンジン推力)も5種類モードがあつて、これらを状況に応じて使い分ける必要がありつます。つまり自動操縦装置を介して飛行機を操縦しているのです。また、現在の旅客機は地上からの遠隔操縦は一切できません。管制官との無線のやりとりは有つても、飛行機を制御するのはパイロットです。このため、不測の事態に備えて2人のパイロットが乗務しているのです。また、航空機の飛行方式には有視界飛行方式と計器飛行方式があり、定期便は後者の



JL731便(札幌 福岡)の機中にて、同級の寺田氏と共に。

●38回 三宅ヨシロウ

新幹線から引き続きの酒が回ってきたかな、と思つた頃、試合が終わつた。戦前の予想Aクラスの「東北」相手に「力負けだな」と、仲間も納得。その東北が二回戦で「鹿児島商工」に完封負け。センバツの予想ほどあてにならないものはない。エース津野君は三度も自分の打席で途切れ、その都度マウンドへ全力疾走。投手くらいは軽めでよいんではないか、と思つたのは私だけではあるまいと思うが：

●39回 大和田洋子

選手の皆さん、あなた方は大層美しかった。打席にすくつと構え、また守備に全力疾走する姿……。私はガンバレ土佐高！と連呼できる自分を誇りに思い、本当に幸福でした。左右に並んだ39回の面々もきつと同じ思いだったのでしょう。ゲームセットの後も皆晴れやかでした。

事務局の皆様、前日からチケットの確保に奔走して下さい。先輩・後輩の方々、本当に有り難うございました。桜には未だしの大坂でしたが、夜には23名の39回生が集い、なんと半数が三十年ぶりの再会で、深夜まで呑みかつ

語り合い、梅田の夜を楽しみました。

●41回 小松 三男

私にとって甲子園は昭和41年春以来27年ぶりのものでした。一塁側アルプススタンドに入るや、あの懐かしいユニフォームが目飛び込んでくる。正に間違いなく土佐のユニフォーム。甲子園に最も似合うなど勝手な思いにひたる内に試合開始の整列。

全力疾走！あー、土佐の選手だ。目に熱いものが浮かばうという時、三塁側からの腹にひびく物音。これは負けちゃおれん。応援リーダーのもと声を限りの声援、応援。はつと気付くと試合終了。結果はと見れば、なんと土佐の敗北。なぜ、なぜなんだ。

夏がある。あの暑い夏がある。この懐かしい心強い姿をまたこの甲子園で見せてくれ！楽しみに待っているぞ若き獅子たち！

●42回 牧内 操

二月上旬の夜、久しぶりに同期の片山雅子さんから電話がかかった。もちろん甲子園応援の件だ。彼女の義兄は往年の東大野球部主将片山直久氏(38回)、長男は現役の野球部選手(海城高)だもの。そ

りや行くに決まっている。試合当日、午前五時起きで新幹線に乗り、関東支部ののぼり前で待ち合わせ。子連れ観戦となった。さすが球児の母、片山さんのつばを押さえた解説を耳にはさみながら迎えた九回表……。しかし、あつてなく勝負がついた。四年前にくらべ、今回は負けてもすがすがしい気持ち。日頃の悪い愚息が「いい試合だったね」となぐさめてくれた。さあ、次に備えてまたへそくりを貯めなくちゃ。オバサンは立ち直りが早いよ。

●42回 藤宗 俊一

久しぶりに会った同級の門脇と曾根崎で盛り上がりがない一杯を酌み交わした後、ホームで、やはり同級の上岡(センバツ準優勝投手)とバッタリ。家族連れで応援の後、前任地の大阪で挨拶回りをしていたとのこと。車中で「全国四十校の中から選ばれた相手に、あれだけ頑張ったんだから立派なものだよ」と子供達に言い聞かせているのを聞いて、それまでのモヤモヤが一気にふっとんでしまった。

●47回 岡林 広文
当日新幹線で甲子園に到着

したのが11時すぎ。早く到着しすぎたので甲子園のまわりをゆっくり一周しながらビデオで撮影。ひとまわりして選手入り口のところに来ると、東北高校の選手達が一列に整列して待機していました。さつそくこれもビデオに収め終わり、ふと目の前を見ると向こうのエース番号を付けた佐藤君と目がばったり合いました。そこで小生「調子はどう？」すると彼、小生を東北高校のOBと思つたらしくニコツとして「バッチリです」。すかさず「実は僕は土佐高OBだけど、今日頑張つてね！」彼、少々ずつこけながら「アツそうですか。ハイ！ありがとうございます。頑張ります」冷静沈着。その妙にリラックスした態度に内心「こりやあひよつとするとやられるかも」

我、素直な心持ちにて敵にエールを送りしこと、彼の発奮材料になったのでしょうか



？アホな奴とお思いの方はぜひ一報下さい。小生の隣で観戦していた高知出身で大阪在住のオバチャンが九回裏、土佐攻撃中に突如トイレに出かける。席に戻つてこないまま、試合終了。ふと席を見ると手提げ袋を置きっぱなしではないか。第四試合の智弁学園の応援団との入れ替えの最中にもその袋持ったままオバチャンを待っていました。結局現れず。やむなく外へでて、警備に当た



●30回 藤谷 敏郎

久しぶりの甲子園。本
当に感動の試合に触れ、
心が踊る一日でした。選
手の皆さん、在校生の皆
さん、本当にごろうさ
ん。土佐高関係者以外の
方の応援のすごさは本
当に嬉しく思いました。

今話題のJR「のぞみ」
号でかけつけ、土佐高野
球部の真白なユニホーム
と全力疾走に酔い、私自
身土佐中の野球部で山本
先生にお世話になった思
い出などの一コマ一コマ
を、また土佐高三年のと
きソフトテニス部で全国
優勝を遂げたことなど重
ねながら、やつぱり「土
佐高のOB」であること
のうれしさと強い絆を甲子園
のスタンドであらためて心
に刻むことが出来ました。本
当に有り難うございました。

●30回 西内 一

中谷元代議員(51)と空港か
ら直行。北岡、近藤両先輩と
3回戦に備えて南部・鹿児島
商工戦から観戦。
本戦では両先輩とも起立し
て校歌・応援歌を声高らかに
斉唱。得点の都度お互い力強
く握手、握手。途中も必ずや

逆転すると互いに強く言い交
わす。よもやの再逆転。試合
の流れから選手、監督とも止
むを得まい。すばらしい試合
で意外に試合後もさわやか。
甲子園のグラウンドの緑と浜風
も心地よく印象深かった。

●30回 浅井 伴泰

七回裏に見事逆転。八回も
三人でおさえ、あと三人と思
ったら、永年の籠尾監督ご夫
妻や関係者のご苦労が脳裏に
浮かび、思わず目頭があつく
なった直後の逆転負け。

ちょうど40年前、当時高校
二年生だった昭和二十八年夏の
松山商との決勝戦。一点リ
ードで九回二死無走者になった
時、全国制覇なんて割と簡単
だなあと一瞬思った直後同点
に追いつかれ、延長十三回で
惜敗。甲子園では、一瞬の心
のスキがおそろしいことは、
グラウンドもスタンドも同じで
昔も今も変わっていない。

組み合わせが決まった直後、
岩村事務局長から関東支部分
のアルプス席券四百枚を前日
中に受け取るようにとの厳命
があり、前夜訪ねた宿舎で縁
起をかついで、選手用のワラ
ジのようなステッキとカツを
ごちそうになり、スタミナを
つけてのぞんだのに残念、無

念。しかし一度は逆転し、勝
利の校歌の夢をみさせてくれ
たがんばりに拍手。

試合後、目星をつけていた
祝宴予定の店を横目でにらみ、
甲子園を一刻も早く忘れよう
と空港へ。途中一緒にあった
溝淵(32)大橋(36)両氏を誘い、
羽田からわが家へ直行し、ワ
イフ(35)と四人で残念会。ピ
デオで悪夢の九回を見て、口
惜しさが再びじわじわとよみ
がえり、マイゴルフと同じく、
思いは「タラ」「レバ」の連
続でつい深酒。翌日しばらく
おさまっていた痛風再発。体
調をととのえ、夏も行くぞ甲
子園！

●30回 原 弘道

「ガンバレ、ガンバレ、土
佐高」と大声をあげて応援。
17年振りのセンバツ出場、居
ても立ってもいられず、丁度
土曜日だったし、朝の新幹線
に飛び乗り甲子園に駆けつけ
た。

純白のユニホーム、全力疾
走と、さわやかな後輩たちの
活躍がなんといつもうれし
い。できれば校歌を聞きたか
ったが残念。東北の選手に較
べてなんとともひ弱な感じ。
夏にはもっと体力をつけて
頑張つて欲しい。

●33回 町田 武仁

ラッキーセブン、久しぶり
に「向陽の空」を斉唱。念力
通じてチャンス到来。津野君
の強打球が目の前に飛んでく
る！ 抜けた！ 逆転の右越
二塁打！ 総立ちのアルプス
席が揺れる。そして迎えた最
終回。この回を切り抜けてく
れたら。ふと頭をかすめた
のは中二(昭和28年)の九回表
緊張が流れる。投げ急ぐな、
投げ急ぐなと思わず叫ぶ。そ
して、しかし、またしても。同
窓生でもない女房殿の咽か
らしての大声援もむなしく。
残念！ でも、あの純白のユ
ニホームと変わらぬキビキビ
したプレーはなにものにも換
えがたい回春の清涼剤。後輩
諸君、ありがとう。

ひとつもかわつちよらん
お元氣な担任の直サント短時
間ながらお会いできたし、フ
ルムーン(?)旅行の約束も果
たせたし。当晚、大阪キタの
「いごっそう」にて痛飲。

●37回 川添 正之

ナインのおかげで甲子園に
行け、高知、大阪、名古屋な
どの懐かしい仲間にも会え、
よい思い出が出来ました。
プレーは全力疾走、勝負は
ゆっくり、最後まで。



待機中の新千歳空港で一息

減速しフラ
ップを出し
ます。最終
進入は滑走
路から出て
いる電波に
乗るよう
機をコント
ロールしま
す。大阪で
は自動着陸
は禁止され

引つ込めたり、コースを細か
く変更したりで忙しい状況が
続きます。また飛行場周辺は
他の飛行機も多く、充分な見
張りをする必要があります。
大阪行は通常2万4千フィ
トあたりまで上昇しますが、
巡航に入れば一息つきます。

もう既に伊豆半島あたりにさ
しかかっています。天気が良
ければ富士山や箱根がきれい
に見えます。コックピットか
ら見る地形や空の様子は何年
たっても見飽きません。客室
と違って窓が広いので、夜間
飛行の夜空や、夜明け直前の
東の空などは息を呑むほど美
しいものです。パイロットに
なつて本当に良かったと思ひ
ます。積乱雲や乱気流がある
時は神経を使います。いくら

科学が発達しても自然の力に
はかないません。高度やコー
ス、速度を変えて対処するの
ですが、揺れが止まらないこ
ともあります。気象レーダー
が装備されていますが、雲中
の水滴を映すだけで、晴天乱
気流には全く無力です。

キャビンではサービスの真
っ最中ですが、天気が良けれ
ば我々は浜松あたりまでは少
しのんびりできます。その後
着陸準備に入ります。先ず目
的地の最新気象情報を手し
ます。それによって進入方式
を決め、コンピュータに入
力します。伊勢湾を過ぎた辺
りから降下を開始します。そ
してISBポイントから地上
のレーダー誘導により最終進
入コースまで飛行します。そ

ているので、最終的には手動
で着陸します。現在国内で自
動着陸ができるのは、成田、
千歳など四つの空港だけです。
着陸は離陸と並んで緊張する
場面です。クリティカル・イ
レブン・ミニッツという言葉
が有りますが、離陸の3分間、
着陸の8分間が最も事故の起
きやすい所です。事故防止の
ため細かい手順が決められて
おり、進入の節目節目で二人
のパイロットが声を出して確
認したり、許容範囲以上コー
スや速度がずれると、副操縦
士が声を出して注意喚起しま
す。

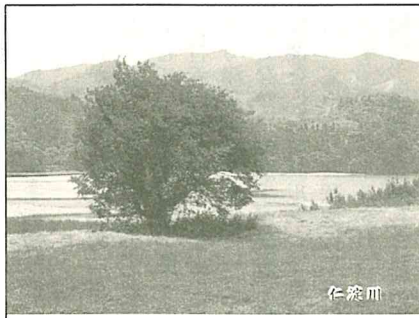
約2500トンの巨体をスム
ーズに接地させるのは難しい
仕事です。もちろん安全には
着陸させられますが、風その
他の条件が毎回変わるので、
たまにはドシンと着きます。
また、雨や雪の日には安全の
ため意図的にドシンと着けま
す。乗客の皆さんが今日のパ
イロットは上手だとか下手だ
とか言いますが、いろんな状
況があつて、客室ではそれら
が分からないので、本当は我
々プロでも客室に座っている
時は批評できないものです。
滑走路をクリアして駐機場
まで移動します。ガイドライ

龍馬も、鯨も待っている
ふと高知

暮らしいきいき、ビビッドバンク

高知銀行

東京支店 中央区八重洲2-6-21 (電) 03-3273-3061



仁徳川

17年ぶりのセンバツ

☆☆☆☆☆
さる3月27日、阪神甲子園球場で行なわれた第65回選抜高等学校野球大会に、母校『土佐高校』が六度目の出場を果たした。昨秋の四国大会を制覇しての出場だっただけに、期待も大きく、「甲子園で校歌を！」の合言葉のもと、関東支部からも総勢三百人（事務局発表）の大応援団が繰り出したが、惜しくも初戦で東北高校に5対3で敗れた。

☆☆☆☆☆

2月1日の大会出場決定後、早速、皇太子御婚約恩赦により罪一等を赦された戦犯を含む外野席首脳が集まり「応援自粛解除！寄付金一〇〇万！」の行動方針を採択、一転してお祭りムード。「組合せが決まるまで仕事の予定がたてられない」とぼやく声がしきりに聞こえ、抽選日の午後は事務局の電話は鳴りつばなし。竹内氏(36)の好意でやつと確保した「のぞみ」の切符20枚はあつと言う間に消えてしまった。

当日、新大阪のホームには『土佐高等学校同窓会関東支部』の幟がひるがえり、家族連れを含む老若男女の異様な集団がゾロゾロと。大阪駅では幟を見た中年男性が駆け寄って来て「私は、土佐高校の大ファンで先日社員旅行で高知に行った時も、観光には参加せずグラウンドに行って練習を見てきました。これから仕事をすませて駆けつけます。頑張りました」と連帯のラブコール。

土曜日とあつて、「予約券がないけど、入場券もらえます」といった同胞も次から次へと駆けつけて来て係は昼食をとる暇も無し。差入れのホカベンをかき込みながら「予約券は決勝戦まで使えます」と切符を渡す。「帰りはあそこのホテルで祝勝会じゃき」。「大阪駅発甲子園行き」の夜行列車があるとか。今度はそれに乗ろう。「明後日高知に行き、二回戦の日は乗継ぎの為大阪に出て熊本に行き、帰りがまた丁度準々決勝の日に重なってしまつて……」「準決勝からは芦屋の寮で合宿じゃあ……」。一回戦の前だというのが、話はエスカレートするばかり。土佐の人間は中庸という言葉すら知らないらしい。

戦いすんで——戦い前の元氣はどこへやら、「残念会を」という声もなく、一人消え、二人消え、幟も小さくたまたまれて……。それぞれの胸に未消化の想いを残して、長かったセンバツの春は終ってしまった。しかし、来ました、届きました、熱き便りが。

『土佐高校野球部応援席は不滅です！』
(F)

●5回 北岡 龍海
始まる前に実力は45対55で相手が上だと聞いた。しかし私の人生観には全員一致して事に当たれば予想もしない偉大な力を発揮するものだというのがある。高校野球の好きな従弟からは高知県の甲子園での勝率は全国一だと聞いていた。一回戦は多分勝つだろう。また勝つてくれと思つて初めての甲子園に来たものだった。

始まつて最初の大ピンチにも少しの動揺を見せず、津野投手と好捕手の頑張りとバックの好守備で、これを無得点で切り抜けたときはこれはいけるなと感じた。そして2対1のアヘッドを七回に津野君のみごとなライトオーバーの二塁打で逆転したときは、応援席の大歓声とともに勝利への確信をいっそう高めたものだった。



八回を無得点で抑えさえすればと思つたのもその通りになった。しかし伏兵は最後の九回にあった。今までまずまず抑えてきていた東北高校の第一の強打者四番を迎え、最初の一球で津野君は今までに一度も見せなかった捕手が後逸する低投をした。ゴルフでここで打つてやろうと意識して左への引っかけボールを打つと同様に、勝利を意識した気負い



がさせる失投である。「これはいかん」と思つたのは私一人ではなかったかも知れない。「四球で歩かせてもよいから、くさい球を」と思つたこの心配はレフトオーバーの三塁打を打たれる結果になってしまった。気落ちした津野君は次の五番にもセンターへ抜けるヒットを打たれ、せっかくの一点のリードも無死のうちに同点に追い付かれ、その後2点の追加で5対3の残念ながらの敗戦となった。

しかし翌日の朝日新聞の「第一戦で去らせるには惜しいチームであつた」との戦評のとおりに、好投好打の好青年津野君や全員野球で頑張った土佐高野球部選手諸君と、ここまで育て鍛えて見事甲子園出

場を果たした籠尾先生のご健闘とに心から感謝と拍手を送りたい。

●9回 中尾 成彦
そしてこれを契機に母校の学業成績でも土佐高創立精神の復活することを期待したいと考えるのは欲張りであろうか。夏の甲子園も期待しよう。

四年ぶりにまた甲子園に応援にいった。今回は母校と東北高校の応援である。というと奇異に感じるかも知れぬが、実は東北高校に親戚の子が出場しているからである。埼玉からスカウトされてはるばる仙台にいき寮生活している。十五名のレギュラー中三名プロ志望、その一人である。彼の一家は三塁、私達は一塁アールプススタンドに別れ、お互

い応援したが、前回の応援のほうがよく統制され活気があつたように思う。勝敗は時の運と言うが実力は先方が勝つてた。しかしファイター一杯の母校はよく頑張つてあわや勝てるかと思つたが、ラスト九回の表東北は四番の三塁打につづき五番の彼がヒットを打つて形勢逆転した。球場の近くに二男が住んでいるので、今後も土佐が出場すれば応援に行きたいと思つてゐる。

●16回 曾和 純一
缶ビールで景氣を付け、カツどんで幸先を祝い、この日のために新調した校章入りの白いシャツ姿で勇躍甲子園の一塁側アールプス・スタンドに陣取る。後攻の我が方が先ず先制、逆転されたのを再逆転していよいよあと一回守りきれば甲子園の空に校歌が流れる。その願いはむなく全力疾走して消えて行つた。

むなしかった。しかし、あの鮮やかなスクイズ、プッシュバント、ライトオーバーの勝ち越し打、神経のいきとどいた守り、観るものの心に爽やかな春風を吹き込んだ。帰つて録画を見ながら、この日が曾我部校長の十三回忌に当たるので、一勝を捧げた

かつたという籠尾監督の気持ちが胸にジンときた。

●28回 川村 愿
甲子園にあの白い全力疾走の旋風が舞い、向陽の空が流れる日を待とう。

土佐高の選手の皆様93センバツの感動をありがとう。本当によい試合でした。勝利の女神はほえんでくれなかつたですが、私たち先輩は、満足して球場を後にしました。前日の夕方、勤め先近くのJR市ヶ谷駅みどりの窓口でこれなら席が残つてゐるといわれて買った「さき」のぞみ。友達を誘つても無理だと一人で乗りこんだのですが、何と関東支部の先輩・後輩の方が十名くらい、揃いのトレーナーのえりをのぞかせていらつしやいました。それぞれの野球への熱い想いを秘められて、母校の応援に心は一つという感じでした。高知新聞に連載された土佐高特集のコピーのスクラップや、バッテリーが表紙に載つた「週刊ベースボール」、巻頭に大特集記事の載つた「ホームラン」等を見せて頂きました。

みなさん身軽ないでたちですが、私はけっこう荷物が多くて、コインロッカーに入れた

るつもりでしたが、初対面の後輩の方がスーツケースをずつと運んで下さつて、申し訳なかつたと思います。ありがとうございました。

甲子園球場では同じ28回の方々にも、何人かお会いしました。もと野球部のレギュラーで甲子園に出場された方々、「ちやうど40年前の今日負けました」とのこと。その年の夏、私たちが卒業した直後の選手権大会で準優勝、「優勝旗のない優勝校」と讃えられたものでした。ことしの夏も頑張つて下さい。

●28回 西岡瑠璃子
八青春が蘇つた日V母校卒業以来40年、こんなに青春が蘇つた日はありませんでした。「甲子園へ行こうよ」と誘いあつて、この日、中谷元さん、山本有二さんとともに空路飛び立ちました。国会は幸いにも土曜日で閉会。

一塁側応援席最前列へ案内された三人は、母校のトレーナーに着替えて、「フレイフレ」土佐高！「マスコミは「母校勝利！願いは一緒、国會議員も呉越同舟」と報道してくれました。二回裏1点を先制、よしよしと思うまもなく、三回逆転を許す。七回津野君